

京都市版レジリエンス戦略について
～ロックフェラー財団「100のレジリエント・シティ」プロジェクト～

1 プロジェクトの概要

- ロックフェラー財団^{※1}（以下「財団」という。）が設立100周年を記念して、2013年（平成25年）に立ち上げたプロジェクト。世界で都市居住人口の急増が見込まれる一方、都市の急速な発展や自然災害等への備えが十分でないとして、公募により選定する世界の100都市に対して、総額1億ドルの財政支援や技術的支援、選定都市相互の情報交換の場等を提供することにより、世界中にレジリエント・シティ^{※2}の構築を目指す取組。これにより、各都市において、そのための指針となる「レジリエンス戦略」を策定し、取組を推進することとされている。
- 2013年～2015年の3箇年で、京都市を含む世界の100都市が選定
選定された100都市には、本市の姉妹都市（ボストン、パリ、グアダラハラ）及び世界歴史都市連盟加盟都市（本市を含む15都市）も含まれている。

※1 ロックフェラー財団：アメリカ合衆国の石油資本家ジョン・ロックフェラーが、「人類の福祉の増進」を目的として1913年に設立した世界最大規模の慈善事業団体。本部はニューヨーク

※2 レジリエント・シティ：災害や混乱等に耐え、可能な限り早急に復旧し、より強靱になることを目指す都市。財団が世界の100都市を選定し、レジリエンスの構築に向けた財政的、技術的支援を提供

2 今後の取組等

(1) 平成28年度中

来年1月又は2月に、財団との協働による最初の取組として、市民、大学、経済界等の関係者の参加によるアジェンダセッティング（課題設定）・ワークショップを開催し、プロジェクトについての理解を促進するとともに、地震や水害、土砂災害等の自然災害などの危機事象や、中長期的な人口減少等、本市が直面している様々な課題に対する理解を共有し、その解決に向けた取組の優先順位を明らかにする。

(2) 平成29年度

アジェンダセッティング・ワークショップの結果を踏まえ、今後の取組を先導するレジリエンス統括監（CRO）を設置するなど、取組の推進体制を整備し、財団との協働のもと、「京都市版レジリエンス戦略」を策定し、実行に移していく。

（参考）財団から提供される4つの支援

- ① レジリエンス統括監（CRO）の雇用資金
- ② 「レジリエンス戦略」を構築するための技術的支援
- ③ 「レジリエンス戦略」の策定と実行を支援するプラットフォームの利用
- ④ 他の選定都市と知識や実践を共有できる100のレジリエント・シティネットワークへの加入